

## 第41号議案

芦屋市火災予防条例の一部を改正する条例の制定について

芦屋市火災予防条例の一部を改正する条例を別紙のように定める。

令和5年6月9日提出

芦屋市長 高 島 峻 輔

### 提案理由

対象火気設備等の位置、構造及び管理並びに対象火気器具等の取扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令の一部改正に伴い、急速充電設備の全出力の上限を撤廃するとともに、急速充電設備の設置に係る規定を整備する等のため、この条例を制定しようとするもの。

芦屋市火災予防条例の一部を改正する条例

芦屋市火災予防条例（昭和48年芦屋市条例第28号）の一部を次のように改正する。







次の表中下線又は太枠の表示部分（以下改正前の欄にあつては「改正前部分」と、改正後の欄にあつては「改正後部分」という。）については、次のとおりとする。

- (1) 改正前部分及びそれに対応する改正後部分が存在するときは、当該改正前部分を当該改正後部分に改める。
- (2) 改正前部分のみ存在するときは、当該改正前部分を削る。
- (3) 改正後部分のみ存在するときは、当該改正後部分を加える。

改正後	改正前
<p>（急速充電設備）</p> <p>第13条の2 急速充電設備（電気を設備内部で変圧して、電気自動車等（電気を動力源とする自動車、<u>原動機付自転車、船舶、航空機その他これらに類するものをいう。以下同じ。</u>）にコネクタ（充電用ケーブルを電気自動車等に接続するためのものをいう。以下同じ。）を用いて充電する設備（全出力20キロワット以下のものを除く。）をいい、分離型のもの（変圧する機能を有する設備本体及び充電ポスト（コネクタ及び充電用ケーブルを収納する設備で、変圧する機能を有しないものをいう。以下同じ。）により構成されるものをいう。以下同じ。）にあつては、充電ポストを含む。以下同じ。）の位置、構造及び管理は、次に掲げる基準によらなければならない。</p> <p>(1) 急速充電設備（全出力50キロワット以下のもの及び消防長又は消防署長が認める延焼を防止するための措置が講じられているものを除く。）を屋外に設ける場合にあつては、建</p>	<p>（急速充電設備）</p> <p>第13条の2 急速充電設備（電気を設備内部で変圧して、電気自動車等（電気を動力源とする自動車等（<u>道路交通法（昭和35年法律第105号）第2条第1項第9号に規定する自動車又は同項第10号に規定する原動機付自転車をいう。第12号において同じ。</u>）をいう。以下この条において同じ。）に充電する設備（全出力20キロワット以下のもの及び全出力200キロワットを超えるものを除く。）をいう。以下同じ。）の位置、構造及び管理は、次に掲げる基準によらなければならない。</p> <p>(1) 急速充電設備（全出力50キロワット以下のもの及び消防長又は消防署長が認める延焼を防止するための措置が講じられているものを除く。）を屋外に設ける場合にあつては、建</p>

改正後	改正前
<p>建築物から3メートル以上の距離を保つこと。ただし、<u>次に掲げるもの</u>にあつては、この限りでない。</p> <p>ア <u>不燃材料で造り、又は覆われた外壁で開口部のないものに面するもの</u></p> <p>イ <u>分離型のもの</u>にあつては、充電ポスト</p> <p>(2) その<sup>きょう</sup>筐体は不燃性の金属材料で造ること。<u>ただし、分離型のもの</u>の充電ポストにあつては、この限りでない。</p> <p>(3)～(5) (略)</p> <p>(6) <u>コネクター</u>と電気自動車等が確実に接続されていない場合には、充電を開始しない措置を講ずること。</p> <p>(7) <u>コネクターが電気自動車等に接続され、電圧が印加されている場合には、当該コネクターが当該電気自動車等から外れないようにする措置を講ずること。</u></p> <p>(8)～(10) (略)</p> <p>(11) <u>急速充電設備を手動で緊急に停止することができる装置を、当該急速充電設備の利用者が異常を認めたとときに、速やかに操作することができる箇所</u>に設けること。</p> <p>(12) <u>急速充電設備と電気自動車等の衝突を防止する措置を講ずること。</u></p> <p>(13) コネクターについて、操作に伴う不時の落下を防止する措置を講ずること。ただし、コネクターに十分な強度を有するものにあつては、この限りでない。</p> <p>(14)・(15) (略)</p> <p>(16) 急速充電設備のうち蓄電池を内蔵しているものにあつて</p>	<p>建築物から3メートル以上の距離を保つこと。ただし、<u>不燃材料で造り、又は覆われた外壁で開口部のないものに面するときは</u>、この限りでない。</p> <p>(2) その<sup>きょう</sup>筐体は不燃性の金属材料で造ること。</p> <p>(3)～(5) (略)</p> <p>(6) <u>急速充電設備</u>と電気自動車等が確実に接続されていない場合には、充電を開始しない措置を講ずること。</p> <p>(7) <u>急速充電設備と電気自動車等の接続部に電圧が印加されている場合には、当該接続部が外れないようにする措置を講ずること。</u></p> <p>(8)～(10) (略)</p> <p>(11) <u>急速充電設備を手動で緊急停止させることができる措置を講ずること。</u></p> <p>(12) <u>自動車等の衝突を防止する措置を講ずること。</u></p> <p>(13) コネクター<u>(充電用ケーブルを電気自動車等に接続するための部分をいう。以下この号において同じ。)</u>について、操作に伴う不時の落下を防止する措置を講ずること。ただし、コネクターに十分な強度を有するものにあつては、この限りでない。</p> <p>(14)・(15) (略)</p> <p>(16) 急速充電設備のうち蓄電池を内蔵しているものにあつて</p>

改正後	改正前
<p>は、当該蓄電池 <u>(主として保安のために設けるものを除く。)</u> について次に掲げる措置を講ずること。</p> <p>ア～エ (略)</p> <p><u>(17) 急速充電設備のうち分離型のものにあつては、充電ポストに蓄電池 (主として保安のために設けるものを除く。)</u> を内蔵しないこと。</p> <p><u>(18)</u> (略)</p> <p><u>(19)</u> (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>(避雷設備)</p> <p>第18条 避雷設備の位置及び構造は、消防長が指定する日本産業規格 (産業標準化法 (昭和24年法律第185号) 第20条第1項の日本産業規格をいう。 <u>以下同じ。</u>) に適合するものとしなければならない。</p> <p>2 (略)</p> <p>(喫煙等)</p> <p>第25条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p><u>3</u> 第1項の消防長が指定する場所 (同項第3号に掲げる場所を除く。) を有する防火対象物の関係者は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める措置を講じなければならない。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 前号に掲げる場合以外の場合 適当な数の吸殻容器を設けた喫煙所の設置及び当該喫煙所における「喫煙所」と表示し</p>	<p>は、当該蓄電池について次に掲げる措置を講ずること。</p> <p>ア～エ (略)</p> <p><u>(17)</u> (略)</p> <p><u>(18)</u> (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>(避雷設備)</p> <p>第18条 避雷設備の位置及び構造は、消防長が指定する日本産業規格 (産業標準化法 (昭和24年法律第185号) 第20条第1項の日本産業規格をいう。) に適合するものとしなければならない。</p> <p>2 (略)</p> <p>(喫煙等)</p> <p>第25条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p><u>3</u> <u>前項の場合において、併せて図記号による標識を設けるときは、別表第7に定めるものとしなければならない。</u></p> <p><u>4</u> 第1項の消防長が指定する場所 (同項第3号に掲げる場所を除く。) を有する防火対象物の関係者は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める措置を講じなければならない。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 前号に掲げる場合以外の場合 適当な数の吸殻容器を設けた喫煙所の設置及び当該喫煙所における「喫煙所」と表示し</p>

改正後	改正前									
<p>た標識の設置（健康増進法（平成14年法律第103号）第33条第2項に規定する喫煙専用室標識を設ける場合においてはこの限りでない。）</p> <p>4 第2項又は前項第2号に規定する標識と併せて図記号による標識を設けるときは、「禁煙」又は「火気厳禁」と表示した標識と併せて設ける図記号にあつては、国際標準化機構が定めた規格第7010号又は日本産業規格Z8210に適合するものとし、「喫煙所」と表示した標識と併せて設ける図記号にあつては、国際標準化機構が定めた規格第7001号又は日本産業規格Z8210に適合するものとしなければならない。</p> <p>5 第3項第2号に掲げる場合において、劇場等の喫煙所は、階ごとに客席及び廊下（通行の用に供しない部分を除く。）以外の場所に設けなければならない。ただし、劇場等の一部の階において全面的に喫煙が禁止されている旨の標識の設置その他の当該階における全面的な喫煙の禁止を確保するために消防長又は消防署長が火災予防上必要と認める措置を講じた場合は、当該階において喫煙所を設けないことができる。</p> <p>6・7（略） 別表第7 削除</p>	<p>た標識の設置（併せて図記号による標識を設けるときは、別表第7に定めるものとしなければならない。）</p> <p>5 前項第2号に掲げる場合において、劇場等の喫煙所は、階ごとに客席及び廊下（通行の用に供しない部分を除く。）以外の場所に設けなければならない。ただし、劇場等の一部の階において全面的に喫煙が禁止されている旨の標識の設置その他の当該階における全面的な喫煙の禁止を確保するために消防長又は消防署長が火災予防上必要と認める措置を講じた場合は、当該階において喫煙所を設けないことができる。</p> <p>6・7（略） 別表第7（第25条関係）</p> <table border="1" data-bbox="1128 1013 2036 1302"> <thead> <tr> <th>表示の種類</th> <th>図記号</th> <th>色</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>禁煙である旨の表示</td> <td></td> <td>記号は黒、斜めの帯及び枠は赤、地は白</td> </tr> <tr> <td>火器厳禁である旨の表示</td> <td></td> <td>記号は黒、斜めの帯及び枠は赤、地は白</td> </tr> </tbody> </table>	表示の種類	図記号	色	禁煙である旨の表示		記号は黒、斜めの帯及び枠は赤、地は白	火器厳禁である旨の表示		記号は黒、斜めの帯及び枠は赤、地は白
表示の種類	図記号	色								
禁煙である旨の表示		記号は黒、斜めの帯及び枠は赤、地は白								
火器厳禁である旨の表示		記号は黒、斜めの帯及び枠は赤、地は白								

改正後	改正前	
	喫煙所である旨の表示	 記号は黒、地は白

## 附 則

### (施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、第13条の2第1項の改正規定及び次項の規定は、令和5年10月1日から施行する。

### (経過措置)

- 2 第13条の2第1項の改正規定の施行の際現に設置され、又は設置の工事がされているこの条例による改正後の芦屋市火災予防条例（以下「新条例」という。）第13条の2第1項に規定する急速充電設備に係る位置、構造及び管理に関する基準の適用については、なお従前の例による。
- 3 新条例第25条第3項第2号の規定の適用については、当分の間、同号中「喫煙専用室標識」とあるのは、「喫煙専用室標識又は健康増進法の一部を改正する法律（平成30年法律第78号）附則第3条第1項の規定により読み替えて適用される健康増進法第33条第2項に規定する指定たばこ専用喫煙室標識」と読み替えるものとする。
- 4 この条例の施行の際現に設置され、又は設置の工事がされている新条例第25条第2項又は第3項第2号に規定する標識と併せて設ける図記号のうち、新条例第25条第4項の規定に適合しないものについては、当該規定にかかわらず、なお従前の例による。

## 参 照

### 芦屋市火災予防条例の一部改正要綱

#### 1 改正の趣旨

対象火気設備等の位置、構造及び管理並びに対象火気器具等の取扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令の一部改正に伴い、急速充電設備の全出力の上限を撤廃するとともに、急速充電設備の設置に係る規定を整備する等のため、この条例を制定しようとするもの。

#### 2 改正の内容

##### (1) 急速充電設備に関する事項について（第13条の2関係）

ア 急速充電設備の定義に係る規定を次のとおり改める。

(ア) 急速充電設備の充電対象を「電気自動車等（電気を動力源とする自動車、原動機付自転車、船舶、航空機その他これらに類するもの）」（現行は自動車及び原動機付自転車）とし、全出力の上限を撤廃する。

(イ) 急速充電設備は、電気自動車等に対しコネクターを用いて充電する設備であることを明記する。

(ウ) 急速充電設備のうち、変圧する機能を有する設備本体と充電ポストで構成されるものを、充電ポストを含めて分離型の急速充電設備として規定する。

ただし、充電ポストについては、以下の規定は適用除外とする。

a 筐体を不燃性の金属材料で造らなければならないこと。

b 屋外に設ける場合は、建築物から3メートル以上の距離を保つこと。

イ 急速充電設備を手動で緊急に停止することができる装置を、利用者が異常を認めたとときに速やかに操作ができる箇所に設けなければならないこととする。

ウ 蓄電池に係る規定を次のとおり改める。

(ア) 主として保安のために設ける蓄電池については、急速充電設備に内蔵する蓄電池について講じなければならない措置に係る規定の適用除外とする。

(イ) 分離型の急速充電設備には、主として保安のために設けるものを除き、充電ポストに蓄電池を内蔵してはならないこととする。

(2) 喫煙等の標識等に関する事項について（第25条及び別表第7関係）

ア 「喫煙所」と表示した標識について、健康増進法に規定する喫煙専用室標識が設置されている場合は設置を不要とする。

イ 「禁煙」、「火気厳禁」又は「喫煙所」と表示した標識と併せて設ける図記号については、国際標準化機構が定めた規格又は日本産業規格のそれぞれ該当する図記号に適合したものをを用いることとし、別表第7の規定を削除する。

(3) その他所要の規定の整備

### 3 施行期日等

(1) 公布の日。ただし、2(1)の改正規定は、令和5年10月1日から施行する。

(2) 経過措置

ア 2(1)の改正規定の施行の際現に設置され、又は設置の工事がされている急速充電設備に係る位置、構造及び管理に関する基準の適用については、なお従前の例による。

イ 2(2)アの改正規定の適用については、当分の間、「喫煙専用室標識」を「喫煙専用室標識又は指定たばこ専用喫煙室標識」と読み替える。

ウ この条例の施行の際現に設置され、又は設置の工事がされている喫煙等の標識と併せて設ける図記号については、2(2)イの規定にかかわらず、なお従前の例による。